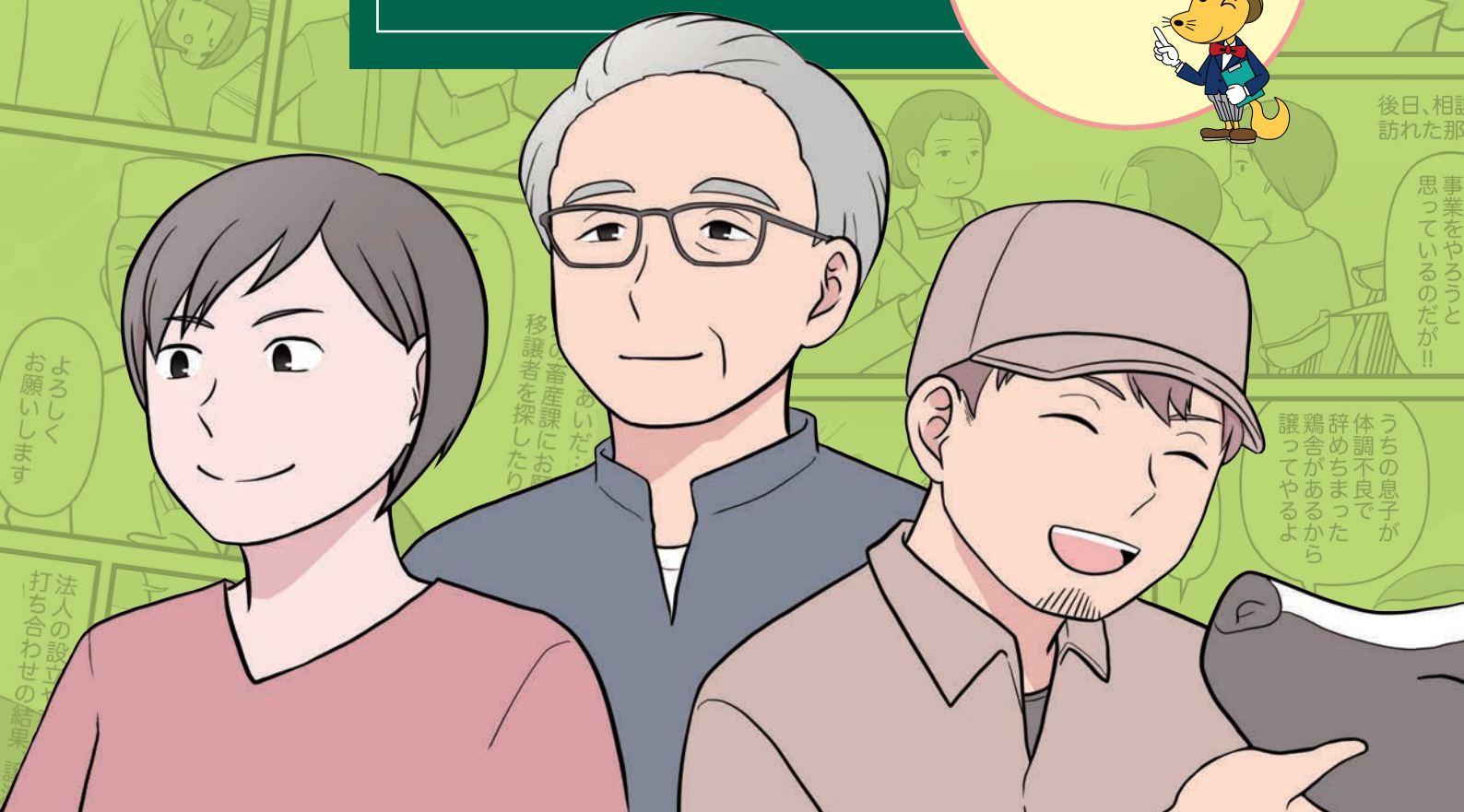


優良事例集

より良い経営継承のための

農業経営者のみなさまへ

グッドポイントや
ケアポイントを
詳しく解説



目次

経営継承とは？	2
事例集について	2

優良事例

事例1 親から子に継承（親族内継承／個人） 小岩昭夫さんの場合	3
事例2 親から子に継承（親族内継承／個人） 中橋文雄さんの場合	7
事例3 親から娘婿に継承（親族内継承／個人） 山口幸一さんの場合	11
事例4 親から娘婿に継承（親族内継承／法人） 有限会社妹背牛牧場の場合	15
事例5 知人に継承（第三者継承（従業員等）／個人） 小野幸徳さんの場合	19
事例6 仲介により継承（第三者継承（従業員等）／個人） 見谷勇さんの場合	23
事例7 酪農ヘルパーに継承（第三者継承（従業員等）／個人） 阿部隆一さんの場合 ...	27
事例8 民間企業に継承（第三者継承（従業員等）／個人） 鮎沢幸雄さんの場合	31
事例9 研修生に継承（第三者継承（従業員等）／法人） 浅小井農園株式会社の場合	35
事例10 従業員への継承（第三者継承（従業員等）／法人） 農事組合法人重兼農場の場合	39

経営継承とは？

後継者に継承するものには、経営権や土地・施設・機械・株式などの「目に見える資産（人・資産）の継承」だけではなく、「目には見えない資産（知的資産）の継承」もあります。

円滑に経営を継承するためには、後継者の育成も必要となるため、計画的に時間をかけて取り組む必要があります。早めの対応がおすすめです。



これから、皆さまを明るく農業の未来にご案内するコンシェルジュの「コン」です。よろしくお願いします。

継承する資産の構成要素



経営継承の類型

親族内継承

現経営者の親族に継承すること。

現経営者の子息や孫以外に、甥や娘婿が後継者候補になることが多く、農業においては、これまではこの類型が多かったが、近年は現経営者の子息が継承しないことから、後継者がいない経営も見られます。

第三者継承（従業員等）

現経営者の親族ではない者に継承すること。

共同創業者、親族以外の役員、部門長等の従業員や優秀な若手従業員等の多様な者が後継者になることが多く、農業においても、現経営者の経営内からの内部昇格などが近年は見られるようになってきました。

第三者継承（M&A）

農業法人を現経営者の親族や従業員等以外が経営する法人に継承すること。

現経営者の親族や従業員等に後継者候補が見当たらない場合に、マッチングサービスや仲介会社などを利用して譲渡先を探すことになります。

事例集について

この事例集は、令和3年9月から11月までにオンラインで全国の様々な経営継承の事例について調査を行い作成しました。

経営継承までのプロセスと継承の内訳を記すとともに、継承のグッドポイントとケアポイントをマンガにしました。

早期継承から法人化などの経営発展へ

経営継承までのプロセス

2002～2004年

後継者が農業大学校にて畜産を3年間学び、家業以外の収入を得るため削蹄師の資格を取得

2005年

後継者が就農（家業に入り、畜産及び稲作を担当）。並行して削蹄師の仕事を開始。先代経営者は兼業で施設野菜を担当

2011年

先代経営者が兼業から専業となる。顧問税理士との経営検討会（毎月開催）を開始（後継者同席）

2012年

家族経営協定に継承について記載

2013年

先代経営者が後継者に対して経営継承の意思確認（1回目）

2015年12月

先代経営者が後継者に対して経営継承の意思確認（2回目）し承諾

かくして具体的に 継承の取組みがスタート!

資産の継承等は顧問税理士や普及指導センターに相談



先代経営者／
小岩昭夫さん
(65歳)の場合

家族と従業員5人で稲作から酪農まで幅広く農業を展開。自身の経験から常日頃、スムーズな事業継承を考えていた。

- 収入金額：37百万円（2015年）
- 所得金額：2.5百万円
- 従業員数：家族専従者3名、
その他の従業者2名、
アルバイト4名
- 事業地：岩手県一関市
- 事業概要：農産物の生産
稲作、施設野菜（ナス）、
肉用牛（繁殖）
- 規模：繁殖牛20頭、田7ha、
牧草地8ha、ハウス30a

2016年1月

後継者が開業届、先代経営者が廃業届を提出し承認

2018年3月

法人化（株式会社KOIWA設立）

親から子に継承（親族内継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 後継者名義の開業届を提出。
- 【法人化後】
- 先代経営者は役員に就任。

資産（モノ・カネ）の継承

- 一部の農地及び施設・機械を生前贈与。贈与税は相続時精算課税を選択し、継承時の支払発生なし。
- 生物（経産牛）と棚卸資産（育成牛）は、売買契約書を締結。
- 【法人化後】
- 農地は後継者名義及び先代経営者名義とも、法人に有償賃貸。施設・機械等は、税理士が算定した減価償却費相当額で後継者及び先代経営者から法人に有償賃貸。

知的資産の継承

- 生産技術は当初から分業。
- 取引先は継承時に一覧表を作成して継続可否を検討。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／（株）KOIWA代表取締役
小岩仁さん（38歳）

法人設立…2018年3月22日

※継承（2016年1月）後に法人化

売上高…60百万円（2021年）

経常利益…20百万円

従業員数…役員3名、正社員4名、アルバイト4名

事業概要…農産物の生産（稲作、施設野菜、露地野菜、作

業受託、肉用牛（繁殖）、削蹄

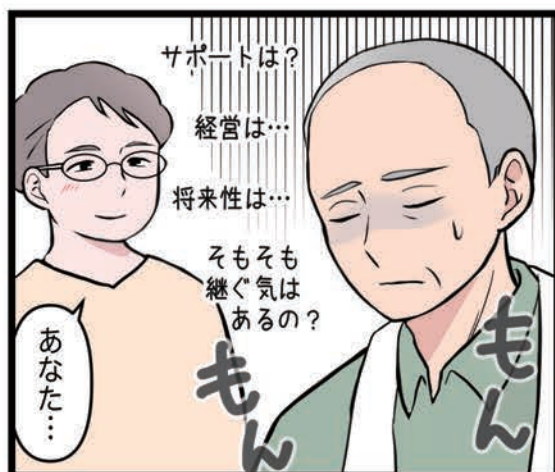
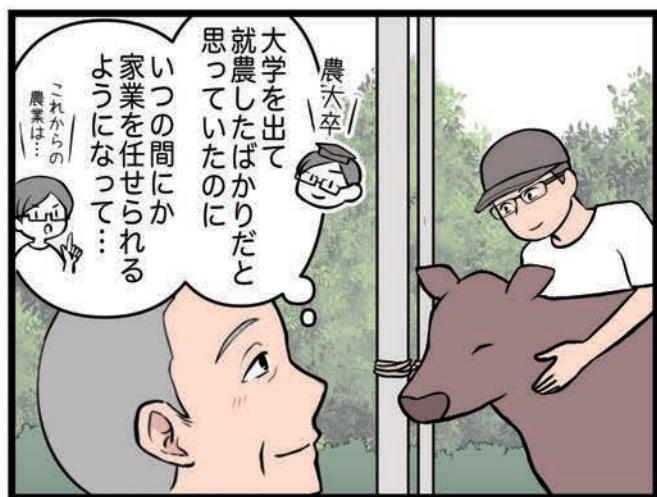
規 模…繁殖牛30頭、田21.6ha、畑1ha、牧草地26ha、ハウス30a、施設450㎡



地域内の農業者の高齢化などもあり、水田の作業受託が年々増加。地域全体の将来のことを考え、若者が長い間働ける環境を整備するため、経営継承の2年後に法人（株式会社）化。役員及び社員の社会保険加入はもちろん、休暇もしっかりとれる組織になったことで、若者も入社。既に将来の経営継承も視野に入れており、法人化したことで、第三者に経営を移譲することも容易にできるようになったと考えている。今後は社員の自主性を重んじた経営をすすめていく。

次ページにて継承ポイントを詳しく解説

小岩家のケースから学ぶ
経営継承あるある



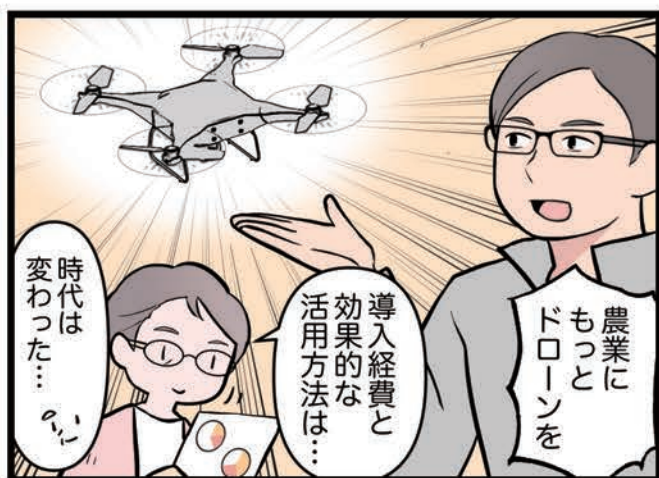
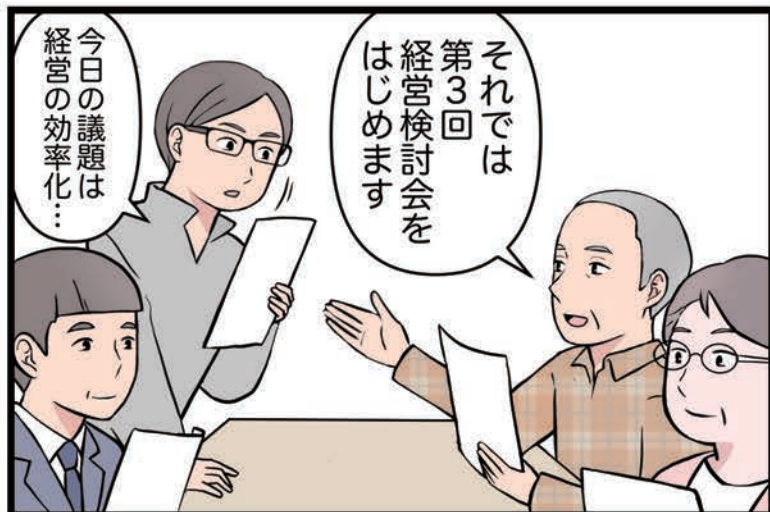


作業の
役割分担が
グッド!!



後継者が農業大学校で学んだ畜産部門と経験のある稲作を就農時点から担当し、先代経営者夫妻が施設野菜部門を担当。同時に部門毎に通帳管理を開始。継承後もその役割分担を維持し、部門毎に従業員の育成も行っており、栽培技術の継承がスムーズに行われた。

グッドポイント②



グッドポイント③

後継者が毎月の経営検討会に継承前から同席。後継者が経営の内情を把握し、今後目指したい経営を自身で考えるようになったことで、継承後の様々な経営発展のイメージがふくらんでいた。

後継者に
考えさせる
のがグッド!!



ケアポイント

先代経営者と後継者で生産部門別の役割分担をした場合、自らの担当分野以外の視点が弱くなる可能性がある。後継者は農業経営者として、経営全体を見ることがや先代経営者の生産技術を引き継ぐことも重要である。先代経営者の担当部門の経験も経営継承において必要なことである。

何事も
バランスが
大切!!



地域全体の将来を見据えた
経営を目指している



親族間による経営継承

経営継承までのプロセス

198X年

先代経営者と先代経営者の弟で、
稲作を開始

2007年

後継者がUターンを機に、就農(家業)し、
子育てと両立



先代経営者／
中橋 文雄さん
(83歳)の場合

地元へUターンしてきた娘と10年
間一緒に営農をしていたが突
然、認知症を発症してしまう。

- 収入金額：8百万円(2018年)
- 所得金額：2百万円
- 従業員数：家族従事者1名
(後継者のみ)
- 事業地：石川県羽咋郡宝達志水町
- 事業概要：農産物の生産(稲作)
- 規模：田7.5ha

2017年

先代経営者が急病により、施設に入所

突然の交代

家族の理解と周りの協力、周辺の農業者から
技術面等でアドバイスをもらう

2017年1月

先代経営者から経営継承

労働力不足により、後継者家族(夫)も就農

親から子に継承（親族内継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 後継者名義の開業届を提出。
- 経営・経理面は先代経営者の弟より学ぶ。

資産（モノ・カネ）の継承

- 資産の引き継ぎは棚卸資産のみ。
- 農地や農業建物については相続で対応することを想定。
- 先代経営者の弟名義の資産の取り扱いについては、協議を行い、賃貸もしくは買い取る方針で調整中。

知的資産の継承

- 生産技術指導として、先代経営者と10年間一緒に営農。
- 先代経営者の弟などの協力を得て、省力化のための直播栽培に切り替える。

継承後の経営発展と今後の取り組み

後継者／高倉 香代子さん（53歳）

継承年月…2017年1月
収入金額…140万円（2020年）
所得金額…50万円
従業員数…家族従事者1名（夫）、アルバイト2名（季節雇用）
事業概要…農産物の生産（稲作）
規模…田16ha、畑0.3ha

周辺農家の高齢化により、令和元年は10ha、令和2年は16haと年々経営規模を拡大。子育てをしながら農業経営に取組むため、従来の移植栽培から直播栽培に栽培方法の変更を行うなど、作業の省力化を図る。女性ならではの視点で効率の良い経営を目指していく。



中橋家のケースから学ぶ経営継承あるある

登場人物



後継者の夫



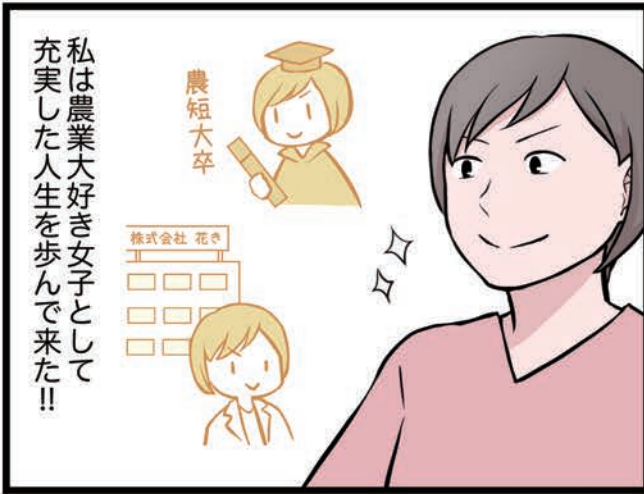
先代経営者：中橋文雄



叔父



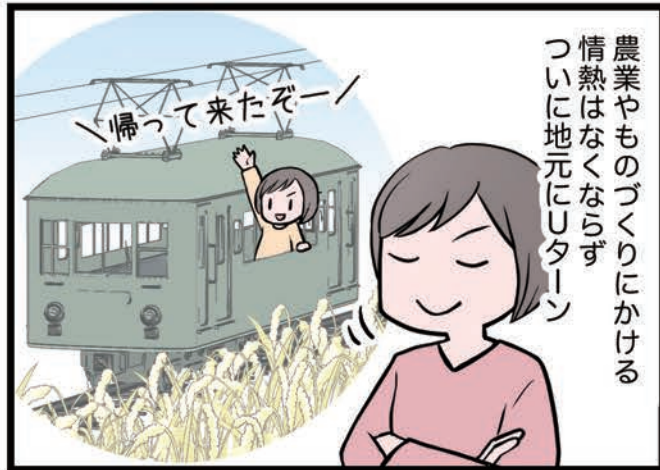
後継者(娘)：高倉香代子



私は農業大好き女子として
充実した人生を歩んで来た!!



良縁にも恵まれ
子供も授かった



農業やものづくりにかける
情熱はなくならず
ついに地元に戻ターン



おーい
乾燥機
貸してくれ

あ、
叔父さんだ

父の元で10年、
楽しい農業ライフを
営んできた…はず



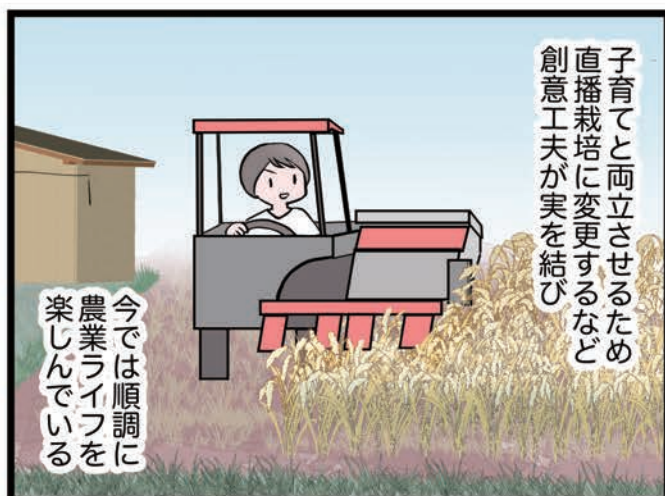
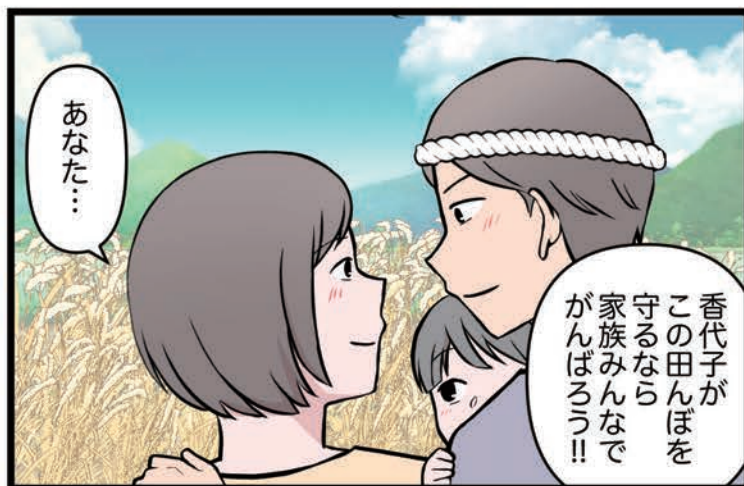
めくれたシートを
直してつて
言ったのよ!!
全て剥がして
どーすんのよー!!



何故!!

なのに

Why!!



親族間（直系卑属外）の経営継承

経営継承までのプロセス

2016年

後継者（娘婿）が会社に勤務しながら
先代経営者の農業の手伝いを始める

2017年

後継者として経営継承することを前提に、
先代経営者のもとで就農開始

2018年

経営継承に関し、**かごしま農業経営相談
所よりスペシャリスト派遣**による専門家
（税理士）派遣開始

**かくして具体的に
継承の取組みがスタート!**

後継者と先代経営者が一緒に経営継承計画を作成
経営継承日を定め、準備を開始



先代経営者／
山口 幸一さん
（68歳）の場合

肉用牛経営から露地野菜の栽培
まで幅広く農業を手掛ける。経営
継承は後継者の想いを尊重し、後
継者を支える形で進めた。

- 収入金額：66百万円（2019年）
- 所得金額：非公開
- 従業員数：家族従事者1名、正社員1名
- 事業地：鹿児島県鹿屋市
- 事業概要：農産物の生産（肉用牛、露地野菜）
- 規模：繁殖牛33頭、
田0.5ha、畑12ha

2020年1月

資産売買契約を締結し、継承

2021年

経営継承に関する補助事業に応募

親から娘婿に継承（親族内継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 後継者名義の開業届を提出。
- 継承する前に、専門家を交え農業経営を学ぶ。

資産（モノ・カネ）の継承

- 資産売買契約を行い、生物と棚卸資産のみを譲渡。
 - 対象…繁殖牛、素牛、飼料等生産に直接的に影響するもの
 - 農業用機械や施設は賃借契約により使用。
 - 対象…トラクター、牛舎等
- 【移譲者債務について】
- 債務はなく、後継者への債務引き受け等は発生せず。

知的資産の継承

- 共に農業を行うことで技術を計画的に継承。
- 継承後は経営に関与せず、後継者より相談があった際に対応。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／中島 将就さん（29歳）

継承年月…2020年1月
収入金額…54百万円（2020年）

所得金額…非公開

従業員数…家族従事者1名、正社員1名

事業概要…農産物の生産（肉用牛、露地野菜）

規模…繁殖牛33頭、田0.5ha、畑12ha

今後、時代の流れに合わせ、地域に適した作物を作り、持続可能な農業経営を行っていく。
牛の増頭、牛舎増築を行い、規模拡大し、また、さらなる機械化による省力化を図る。



山口家のケースから学ぶ経営継承あるある

登場人物



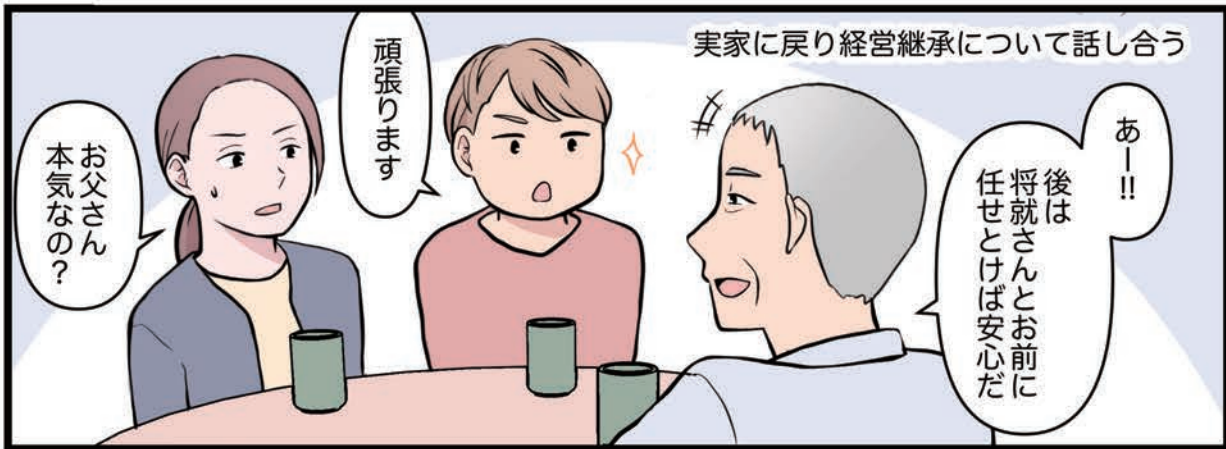
娘：中島南

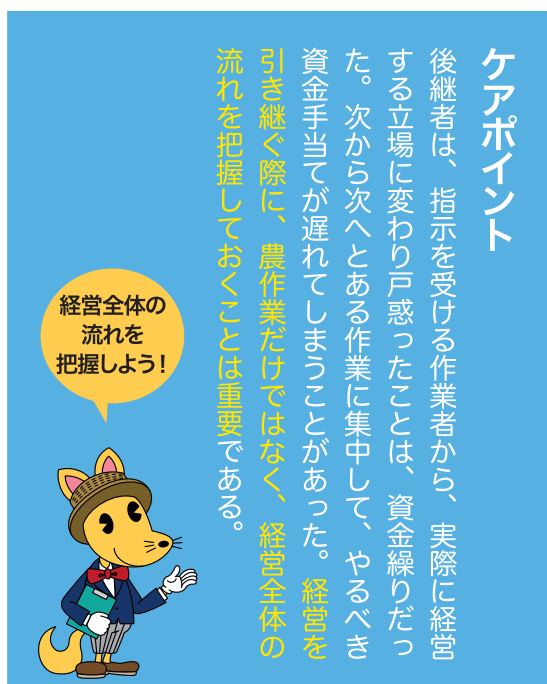
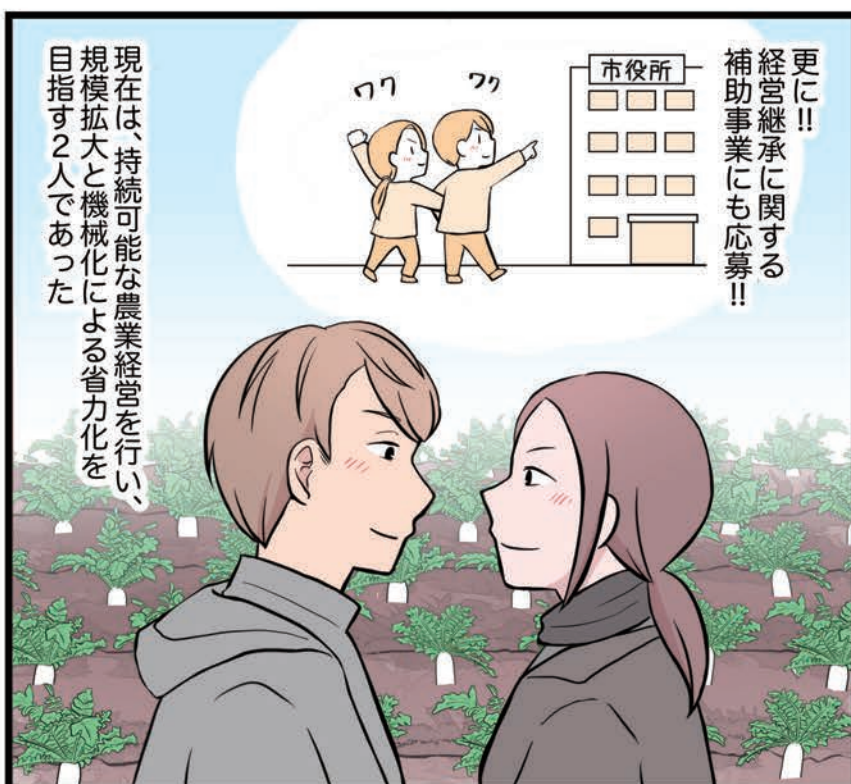
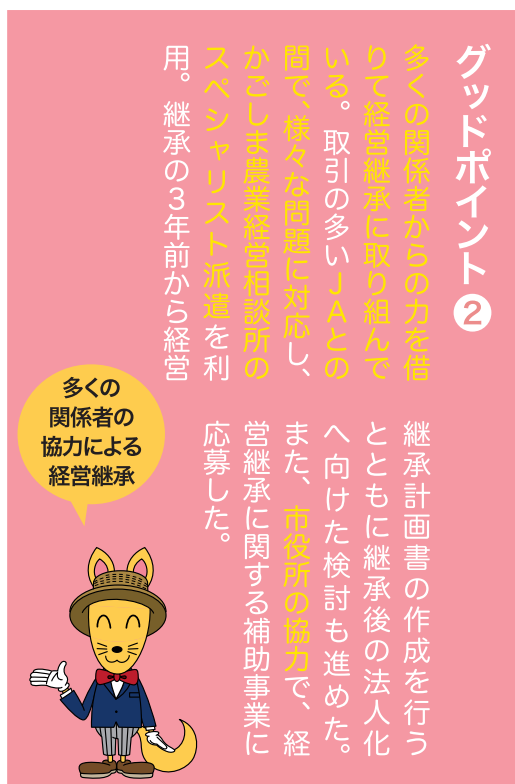
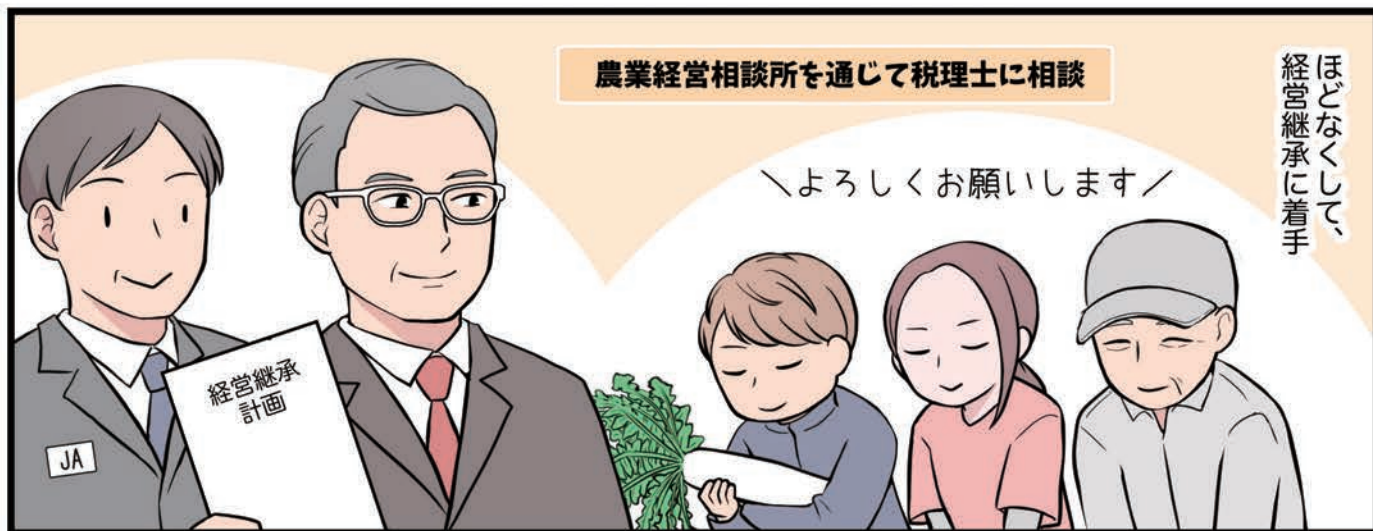


先代経営者：山口幸一



後継者(娘婿)：中島将就





親族間(直系卑属外)の株式譲渡による経営継承

経営継承までのプロセス

2001年

有限会社 妹背牛牧場を設立

2010年

後継者が有限会社 妹背牛牧場に就職



先代経営者／
伊藤 守さん
(70歳)の場合

飼養管理に長け、地域の中でも優れた経営者。仕事への厳しい姿勢からか後継者選びが難航。親族が就職したことで、経営継承の話がスムーズに進み始めた。

有限会社 妹背牛牧場

- 売上高: 100百万円(2018年)
- 経常利益: 18百万円
- 従業員数: 役員1名、アルバイト1名
- 事業地: 北海道妹背牛町
- 事業概要: 農産物の生産(酪農)
- 規模: 経産牛60頭、畑14ha、牧草地42ha

2017年

急遽、先代経営者より後継者としての打診があり、継承を決意

かくして具体的に
継承の取組みがスタート!

資産の継承等は顧問税理士に相談
経営権を譲渡することから検討開始

2017年

株式の売買について、顧問税理士に相談

2018年4月

株式譲渡により継承

親から娘婿に継承（親族内継承・法人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 後継者と先代経営者の間で、株式譲渡契約を締結。

資産（モノ・カネ）の継承

- 制度資金を活用し、株式購入資金を調達。
- 資産の価格の算定は顧問税理士が関与。
- 先代経営者が法人に貸与していた農地等は、使用貸借（無償）。

知的資産の継承

- 先代経営者のもとで6年間勤務。
- 継承後も、技術面に関して随時指導を受けている。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／（有）妹背牛牧場 代表取締役
佐々木 亮太さん（39歳）

継承年月…2018年4月

売上高…109百万円（2020年）

経常利益…3百万円

従業員数…役員1名、正社員3名、アルバイト1名

事業概要…農産物の生産（酪農）

規 模…経産牛64頭 畑14ha、牧草地42ha

『牛と共に歩む』がコンセプト。牛の健康とストレスフリーの追及、コミュニケーションを大切に信頼関係を構築する等、牛との関わり方に重点を置く。牛を主導とした日常、牛に優しい環境作りを心掛け、長命連産を目標に定めた。

牛主導で搾乳できる自動搾乳ロボットや餌寄せロボットなども導入。牛のストレス軽減を図り、今後も健康的な生乳生産を行っていく。



👉 次ページにて継承ポイントを詳しく解説

(有)妹背牛牧場のケースから学ぶ経営継承あるある

登場人物



娘：佐々木牧子



先代経営者：伊藤守



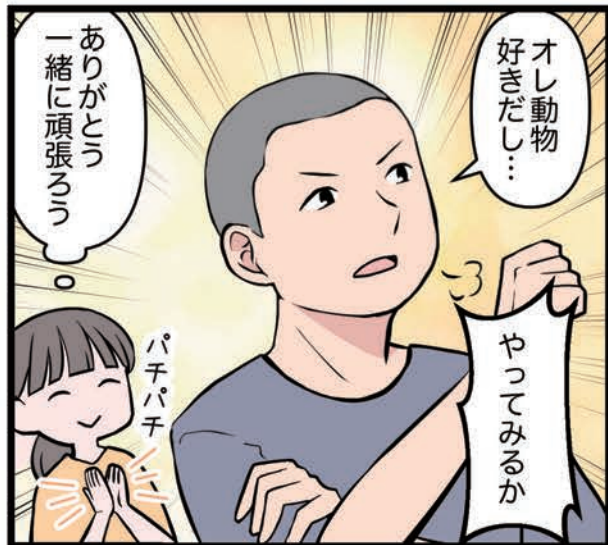
後継者(娘婿)：佐々木亮太

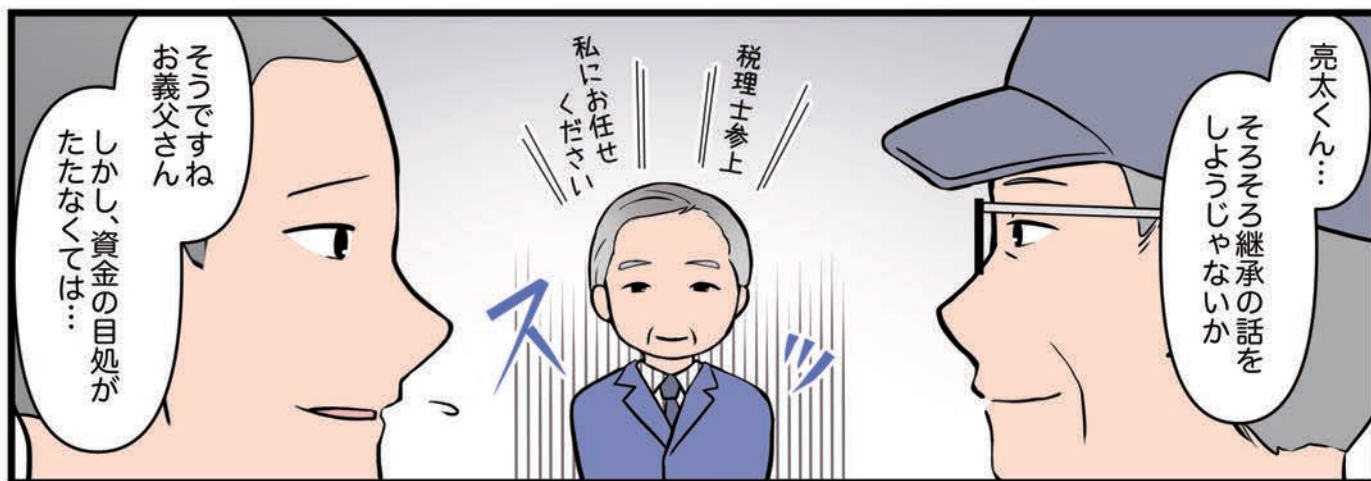


グッドポイント①

飼養管理に長け、自分にも他人にも厳しかった先代経営者。他のやり方の導入には慎重で、後継者候補を外部から複数回招へいしたものの長続きしなかった。娘婿である親族が就農したことで、経営継承に向けて動き出すことができた。

親族だからできた引継ぎ





グッドポイント②

後継者は、スーパー資金を借り入れ、株式取得費用を支払った。就農直後は、融資を受けるための実績づくりは難しいことが多い。しかし、**税理士、JAと日**

制度資金の活用がポイント!!



本政策金融公庫が連携して支援することにより、今までの法人の健全な経営と今後の後継者の事業性評価により、無担保での金融支援を受けた。



ケアポイント

今回のケースでは、経営継承の着手から、比較的早い段階で株式や資産の売買を進めている。今後先代経営者からの借入金などを法人から支出するため法人の負担が大きくなることが予想される。また、先代経営者の資産が膨らむことで、相続人に対する相続税負担も想定される。資産の継承方法は、慎重かつ丁寧にする必要がある。

慎重かつ丁寧が大事



身近な関係から後継者へ

経営継承までのプロセス

2011年

先代経営者の息子が就農し、
後継者として営農開始

2014年

先代経営者の息子の体調不良により、
離農を決意

2016年

後継者が櫛(しきみ)の生産を検討し、
近隣の先代経営者に相談。種鶏が
長く続けられるとアドバイスを
受ける

先代経営者が後継者に対して
経営移譲の意志を伝達し承諾

2017年

後継者がJAに相談し、就農前に
研修農場の紹介を受ける

かくして具体的に
継承の取組みがスタート!

生産技術習得のために研修農場で勉強
家族4人で就農することを家族会議で確認

2019年7月

離農済みのため、先代経営者の農地のみを
売買し、継承



先代経営者/
小野 幸徳さん
(81歳)の場合

種鶏・花きを中心に営農。息子に
跡を継がすも体調不良により離
農を決意。

- 収入金額：※離農済み
- 従業員数：家族専従者1名(妻)
- 事業地：宮崎県延岡市
- 事業概要：農産物の生産(種鶏、花き)
- 規模：種鶏8千羽、鶏舎2棟

知人に継承（第三者継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

● 離農済みのため、従来の経営概略を学ぶ。

資産（モノ・カネ）の継承

● 農業用設備について、農地以外はJA名義であったが、遊休資産かつ老朽化が著しいため、無償譲渡

● 先代経営者から農地のみを売買し、設備を修繕することで、営農開始。

【農地価格の算出方法】

● 近隣の売買事例を参考に、お互いが納得する形で売買。

● 後継者は設計士であったことから、土地売買には精通していた。

知的資産の継承

● 離農済みのため、技術の継承については、研修農場で学ぶ。

● 経営継承後は、JAの指導員や先代経営者より随時指導を受ける。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／那須政道さん（63歳）

継承年月…2019年7月

収入金額…180万円（2020年）

所得金額…50万円

従業員数…家族従事者3名（妻、長男、長女）

事業概要…農産物の生産（種鶏）

規 模…種鶏8千羽、鶏舎2棟

現在、種鶏卵をJA経由にて出荷しているが、初期産の卵と後期産の卵が規格外品とされ、1シーズンあたり約12万個廃棄処分となる見通し。食品ロスの観点からも、液体凍結設備等を導入し、品質が高く鮮度が保てる冷凍卵として食品業界へ販売を行う等、六次産業化を検討中。家族4人で就農していることもあり、十分な労働力を確保することができおり、規模拡大および六次化を行い、農業経営を発展させていく。



👉次ページにて継承ポイントを詳しく解説

小野さんのケースから学ぶ 経営継承あるある

登場人物



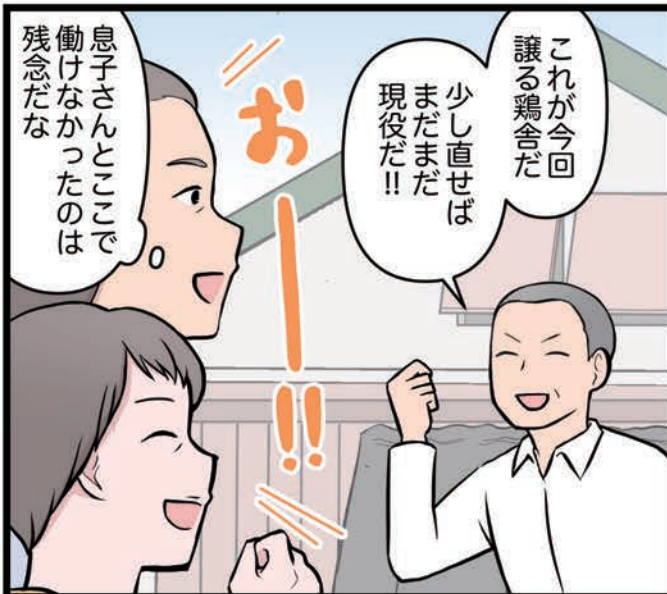
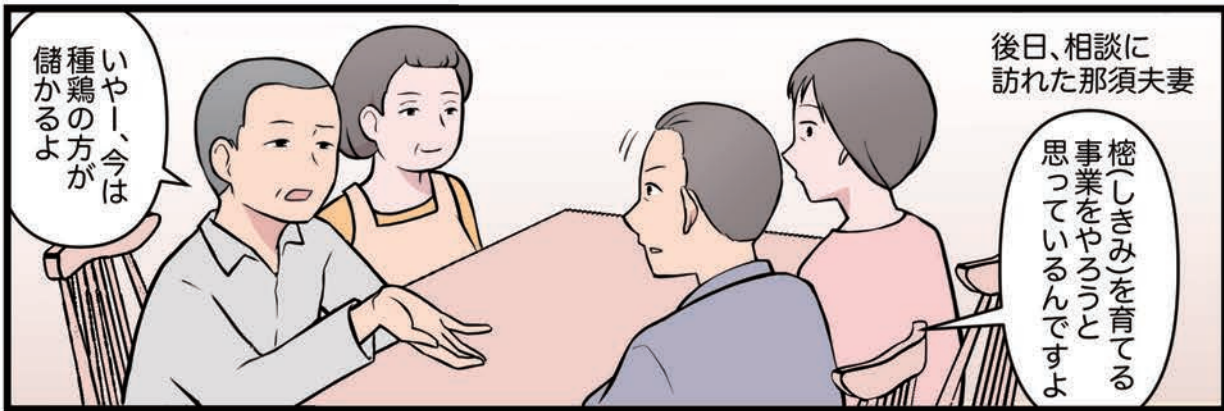
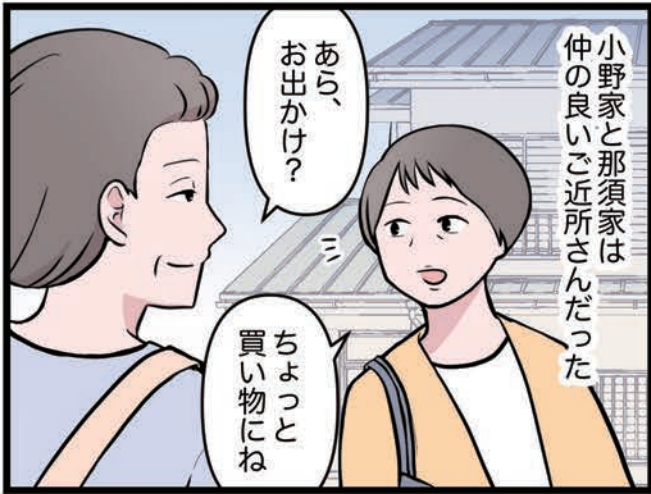
後継者：那須政道 先代経営者：小野幸徳

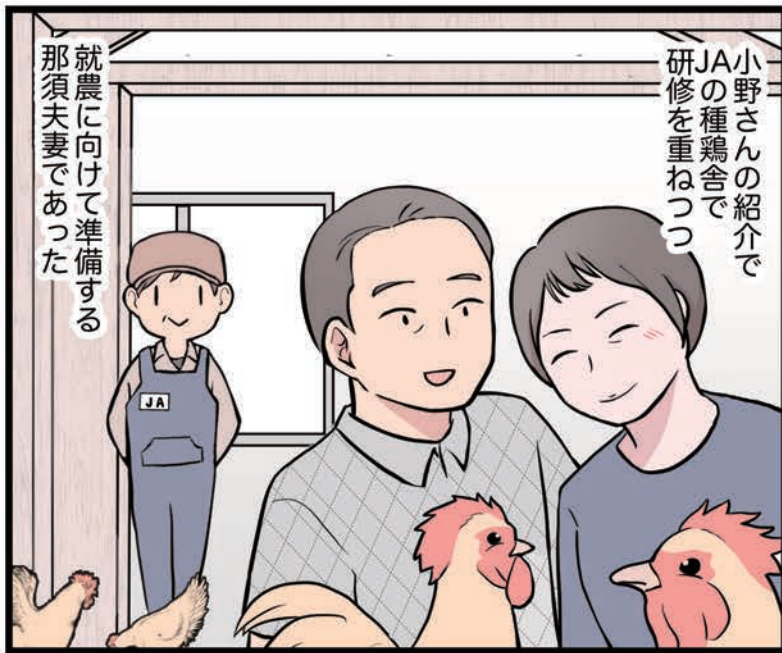


後継者の妻



先代経営者の妻





グッドポイント①

第三者への継承であるが、お互いに古くからの知り合いで良好な関係構築ができていたため、先代経営者に勧められた種鶏生産を継承。また、資産の売買についても、スムーズに契約締結。経営継承後も先代経営者からのアドバイスが随時受けることができるなど、協力的ながら、経営を維持発展できている。

良好な
関係構築



ケアポイント

今回は休鶏舎だったため、補修や新たな設備の導入など想定以上の多額の費用を要した。後継者は、継承する農場で農作業の経験することが望ましい。それをベースに、必要な施設や資金繰りなどのイメージができる。

継承する
農場で
農作業
経験する



グッドポイント②

長男が会社を退職して、AIの導入などのスマート農業を担当。長女も参画し、これまで農業経験がない家族全員が、前職の経験を活かし、家族一丸となって省力化や規模拡大を目指している。

家族全員で
就農



個人間による第三者経営継承

経営継承までのプロセス

2014年

後継者が就農を決意

2015年

公務員として勤務しながら、就農先を探す

全国農業会議所の経営継承事業に申込

農業関係機関の仲介により、後継者と先代経営者が会う

後継者と移譲者の間で、経営継承について取決め



先代経営者／
見谷 勇さん
(88歳)の場合

ぶどう専門のミタケフルーツ農園を経営。親族は継ぐ気がなく、園地への運転も高齢で難しくなり、離農を考えていた。

- 収入金額：非公開
- 所得金額：非公開
- 従業員数：家族従事者1名、アルバイト2名
- 事業地：山口県周南市
- 事業概要：農産物の生産（果樹）、直売、観光果樹園運営
- 規模：樹園地1.2ha

2016年

後継者は勤務先を退職し、家族で山口県へ移住

かくして具体的に 継承の取組みがスタート!

先代経営者のもとで、後継者が農業経営を学ぶために従事

農業用資産の継承に向けた準備を開始

2016年

農業用資産の継承に向けて、売買に関する交渉を開始したものの、売買条件が都度変更されたため、農業関係機関が仲裁

2017年12月

交渉の結果、後継者が譲歩する形で、契約締結事業譲渡契約により継承

仲介により継承（第三者継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

● 後継者と先代経営者の間で、事業譲渡契約を締結。

資産（モノ・カネ）の継承

● 事業譲渡契約を行い、すべての資産を一括譲渡（売買）。
対象…農地、農業用機械、果樹。
農場までの接道については、使用貸借契約を行い、利用中。

知的資産の継承

● 約2年間、先代経営者より生産技術指導を受ける。
● 生産だけでなく、贈答向け個人販売、観光果樹園の運営や、販路を引継ぐ。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／田中友和さん（45歳）

継承年月…2017年12月

収入金額…非公開

所得金額…非公開

従業員数…家族従事者1名、アルバイト8名（季節労働）

事業概要…農産物の生産（果樹）、直売、観光果樹園運営

規模…樹園地1.2ha

先代経営者が行っていた農園管理・農法に敬意を払いつつ、同じようにぶどうの栽培を行っている同年代の仲間たちと、次世代の農園管理・農法にも果敢に挑戦し、よりよい農園を目指す。



次ページにて継承ポイントを詳しく解説

見谷さんのケースから学ぶ 経営継承あるある

登場人物



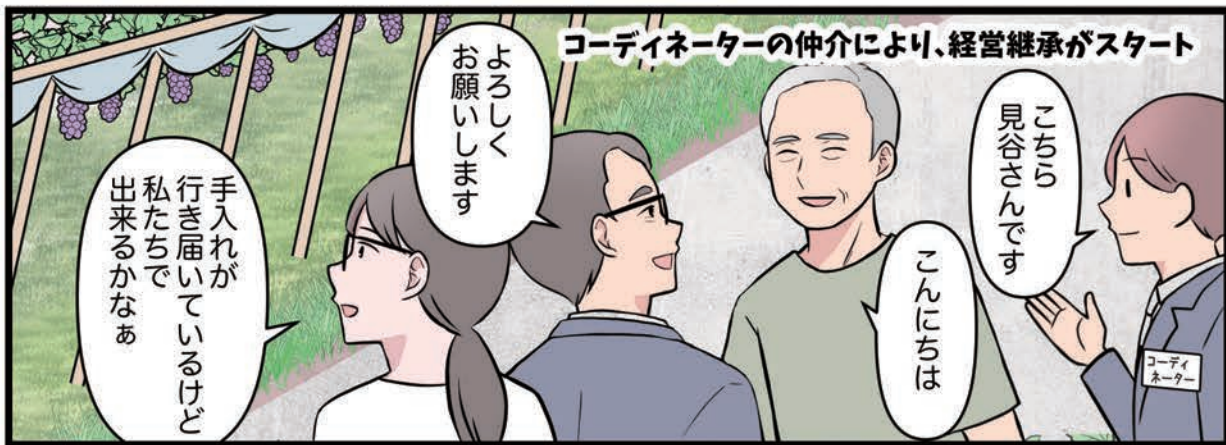
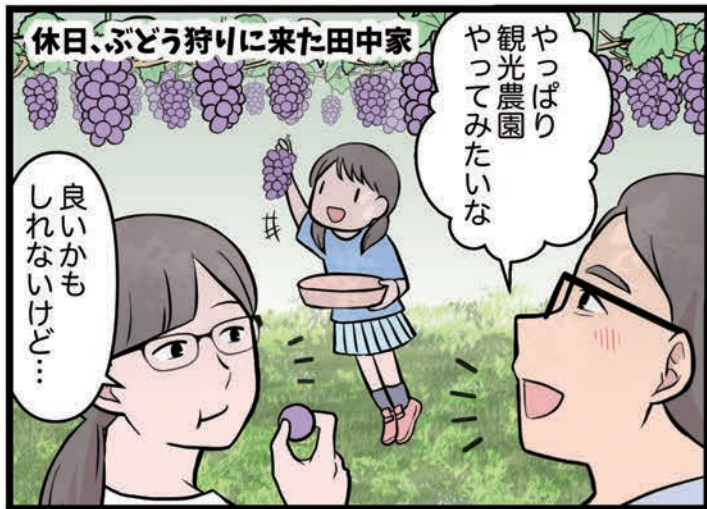
後継者：田中友和



先代経営者：見谷勇



後継者の妻



グッドポイント

後継者夫妻は農業初心者だったため、就農予定先で、天候や農地、果樹の特性について、40年の経験のある先代経営者の懸命に働く姿を間近で学べたことは大きかった。早生栽培の樹園地は傾斜地であり、草刈には大変労力がかかることを身をもって体験でき、経営継承する前に対策を立てることもできた。また、販路も継承できたことは、先代経営者と後継者双方言っている。

就農予定先で 農業を学ぶ



ケアポイント①

農産物の生産と併せて、経営を学ぶことも重要な経営継承である。今までの経営内容を数値も含めて後継者に伝えることは大事なことが、先代経営者の中には強い抵抗を感じる方もいる。

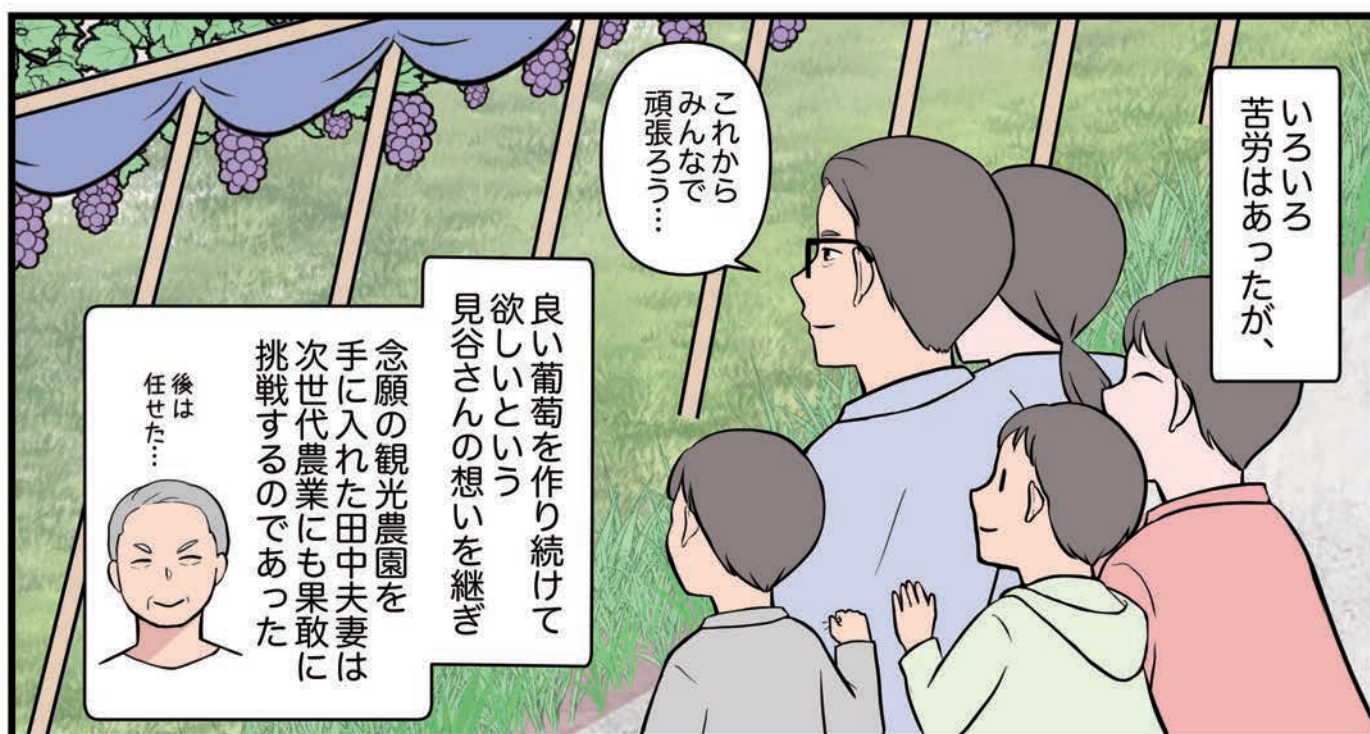
承継後の経営も重要です



ケアポイント②

当初予定していた資産の譲渡金額（口頭）について研修開始半年頃に変更の話が出た際に、一時的に先代経営者と後継者のみで価格交渉したことで、研修生と売買の交渉相手という2つの立場が混ざり、平等な立場での話し合いができなくなった。

譲渡金額は書面で



将来設計を考えた経営継承

経営継承までのプロセス

2014年

後継者は酪農ヘルパーをしながら、経営継承できる酪農家がないかを探し始める

2017年

先代経営者は娘4名と家族会議を行い、**親族継承はしないことを確認**

2018年

後継者より先代経営者に対し、**経営継承したい旨を申し出、了承**

**かくして具体的に
継承の取組みがスタート!**

関係者に継承に必要な資金調達や
契約内容の相談開始

2019年

普及指導センターに通いながら、経営継承画書の作成に着手

2020年10月

先代経営者の農場で研修を開始

金融機関に、事業計画の提出と借入相談を開始。事業譲渡契約締結に向け第三者支援のもと本格的に開始

事業譲渡契約により継承



先代経営者／
阿部 隆一さん
(63歳)の場合

計画的な経営継承の重要性に早くから気づき、10年かけて実行に移す。親族に継承の意思がないことを確かめ、第三者継承を目指した。

- 収入金額：38百万円(2018年)
- 所得金額：16百万円
- 従業員数：家族従事者1名
- 事業地：岩手県岩泉町
- 事業概要：農産物の生産(酪農)
- 規模：経産牛26頭、牛舎528㎡、牧草地8ha

酪農ヘルパーに継承（第三者継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 事業譲渡半年前より、先代経営者から農業経営に関する指導を受ける。

資産（モノ・カネ）の継承

- 事業譲渡契約を行い、農地以外の資産を一括譲渡。
対象…農業用機械、牛舎、生物（経産牛）
資金調達は、青年等就農資金を利用。
- 農地については、農地中間管理機構を利用し、賃借（有償）。
- **【金額の算定】**
機械はメーカー中古価格を参考。乳牛は市場価格とJAの評価。不動産は固定資産税評価額を参考とした。

知的資産の継承

- 継承後も生産技術指導として、先代経営者と年間雇用契約（時間給）を行い、継続的な関係を維持し、経営のアドバイスを随時もらう。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／山屋 祐太さん（28歳）

継承年月…2020年10月
収入金額…非公開
所得金額…非公開
従業員数…家族従事者1名、アルバイト1名（移譲者）
事業概要…農産物の生産（酪農）
規 模…経産牛39頭、牛舎528㎡、牧草地8ha

経営主として、責任を感じ、いかに経営を維持発展させるかを考えている。先代経営者が大切にしていた設備を譲りうけたことで、物の大切さを実感しており、修繕しながら、効率のよい生産を目指す。

機械化にも徐々に取組み、作業効率を上げ、規模拡大も検討しながら、地元の重要な産業として、盛り上げていく。



👉 次ページにて継承ポイントを詳しく解説

阿部さんのケースから学ぶ 経営継承あるある

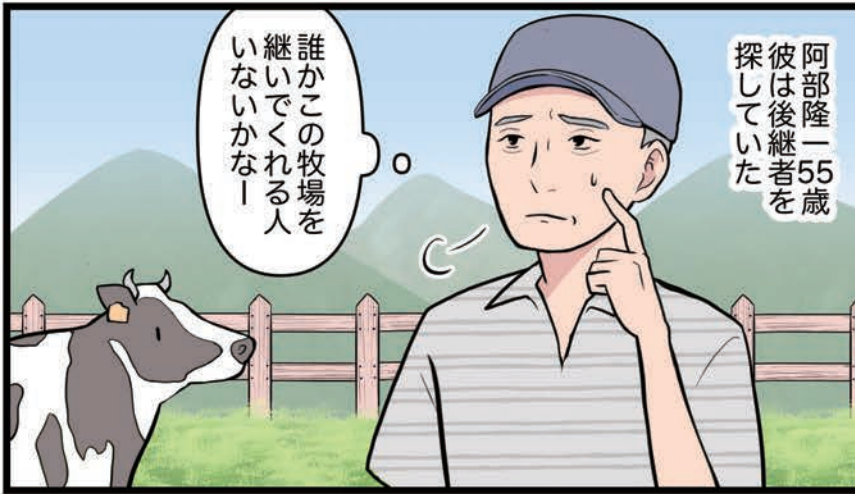
登場人物



先代経営者：阿部隆一



後継者：山屋祐太

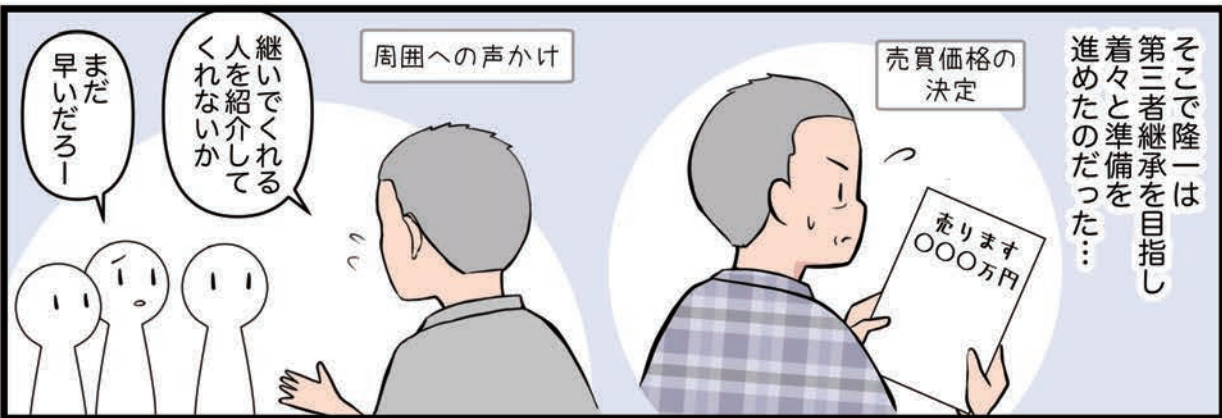


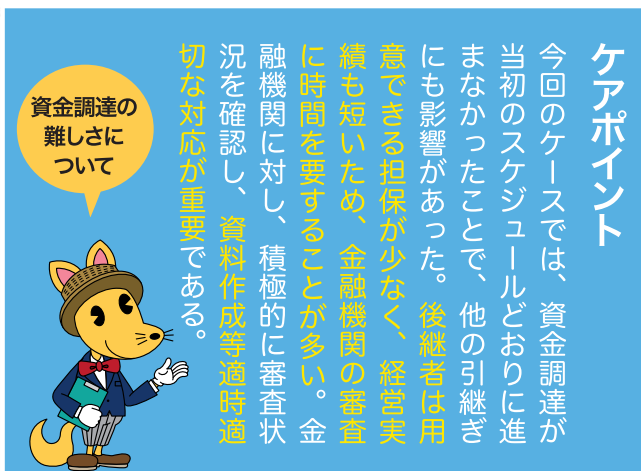
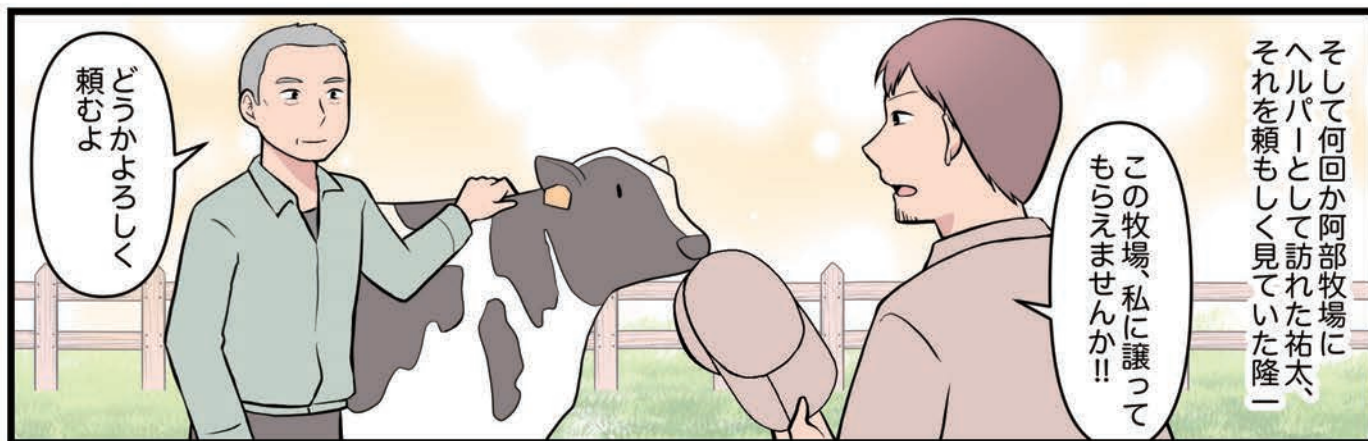
グッドポイント①

先代経営者は、夫婦のどちらかが
体調をこわすと経営が悪化し、廃
業にもつながることから、65歳ま
でに借金なしで継承すると決めて
いた。また、人生設計で酪農をや
めた後にすることのイメージも
持っていた。

55歳のときに嫁いだ娘たちとの家
族会議を開き、親族は継がないこ
とを確認。家業の今後のことは
先代経営者夫婦に任せることで
合意。

人生設計を
考えた継承





民間企業の農業参入による経営継承

経営継承までのプロセス

2015年

精肉店を営む後継者が就農を決意
市内の養豚農家を自らの足で回り始める

2016年

事業地の選定や関係機関と打ち合わせ
が本格化

県の畜産課や食肉流通センターの紹介
により後継者と先代経営者が会う

後継者より先代経営者に対して経営継承
の意思確認



先代経営者／
鮎沢 幸雄さん
(74歳)の場合

地域のブランド豚の生産者が
年々減少傾向にあるなか、その
担い手として頑張って来たが寄
る年波には勝てず、業務縮小し
廃業も覚悟していた。

- 収入金額：41百万円(2016年)
- 所得金額：7百万円
- 従業員数：0名(本人のみ)
- 事業地：山梨県中央市
- 事業概要：農産物の生産(養豚)
- 規模：母豚65頭、
豚舎6600㎡、
田1.5ha

2017年春

先代経営者のもとで就農

かくして具体的に 継承の取組みがスタート!

弁護士・税理士に資産査定を依頼
事業計画策定、金融機関への支援要請を同時に実施

2017年夏

金融機関に、事業計画の提出と借入相談
開始。併せて、事業譲渡契約締結に向けた
交渉を第三者介入のもとで本格的に開始

2018年

後継者が養豚の法人を設立

2019年4月

事業譲渡契約により、継承

民間企業に継承（第三者継承・個人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 後継者と先代経営者の間で、事業譲渡契約を締結。
- 事業譲渡1年前より、先代経営者から農業経営に関する指導を受ける。

資産（モノ・カネ）の継承

- 事業譲渡契約を行い、すべての資産を一括譲渡。
- 対象…農地、農業用機械、豚舎、生物（母猪）、のれん代
- 資産評価額と先代経営者希望額との乖離額については、のれん代（営業権）として、事業譲渡契約に追記。
- **【事業譲渡契約締結後】**
- すべての資産を法人が所有。
- 設備の減価償却資産が少ないため、のれん代の減価償却を損金算入することで、税負担を軽減。

知的資産の継承

- 生産技術指導として、先代経営者と年間雇用契約を行う。
- 契約内容に指導項目を定め、指導内容やルールについても明文化。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／（株）Buta代表取締役

小島徹さん（58歳）

継承年月…2019年4月

売上高…60百万円（2020年）

経常利益…非公開

従業員数…役員1名、正社員3名、アルバイト1名

事業概要…農産物の生産（養豚）

規模…母猪104頭、豚舎6600㎡、田1.5ha

法人（農業従事者4名）として十分な労働力があるため今後5年間で3倍まで規模拡大を計画している。

就農直後は、想定していなかった事象が数多く発生し、対応に追われたものの、事前に資金調達を行っていたことや、様々な関係者と良好な関係を築くことができていたこともあり、乗り越えることができていた。今後も地域ブランド豚の生産者として、地域貢献を行っていく。



👉次ページにて継承ポイントを詳しく解説

鮎沢さんのケースから学ぶ 経営継承あるある

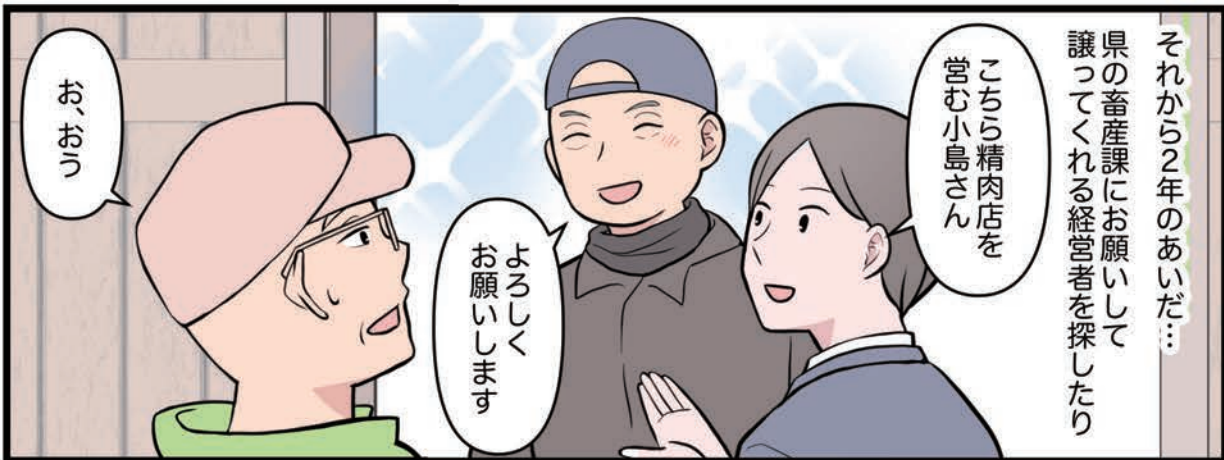
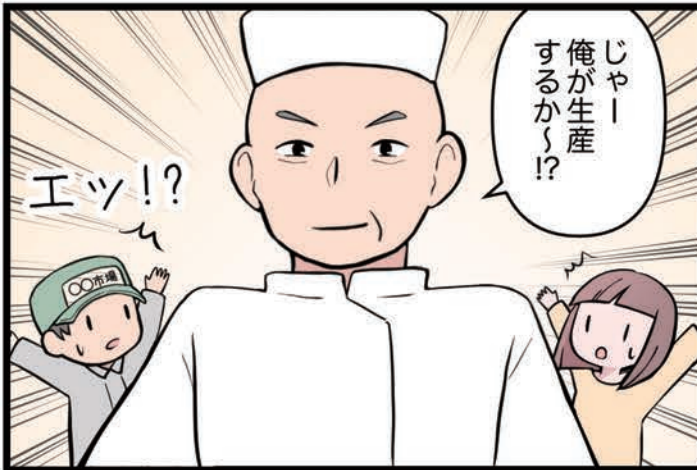
登場人物



先代経営者：鮎沢幸雄



後継者：小島徹

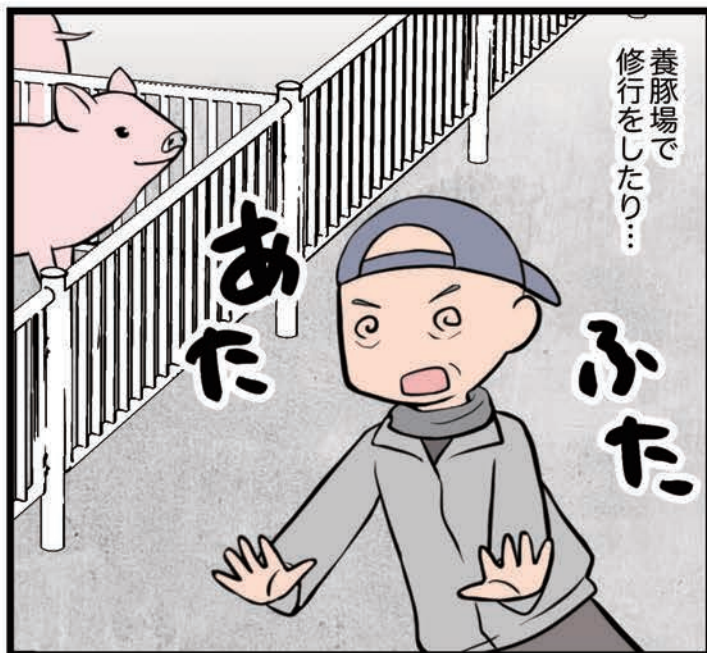


ケアポイント

先代経営者から提示された金額をそのまま受け入れる形で売買契約を締結した。第三者への売買金額は、後継者候補が多ければ、先代経営者有利に働き、結果として、後継者は多額の負債を背負って開始することになる。畜産業の設備は、畜舎や生物も資産となり、売買には、多額の資金が必要となる。金額の決定に際し、関係機関・専門家の協力による売買価格の評価も検討材料になる。

売買価格の調整





グッドポイント①
後継者の精肉店経営で培った経験を活かした川下から川上への農業参入。農業の経験はないが、自身で生産物（枝肉）の目利きがでることや食肉卸売市場に知り合いが多いことから、販

川下から
川上への参入



路の確保とニーズに沿った生産が実現。商工会議所、中小企業団体中央会などで知り合った方に困った時に相談できることも大きい。



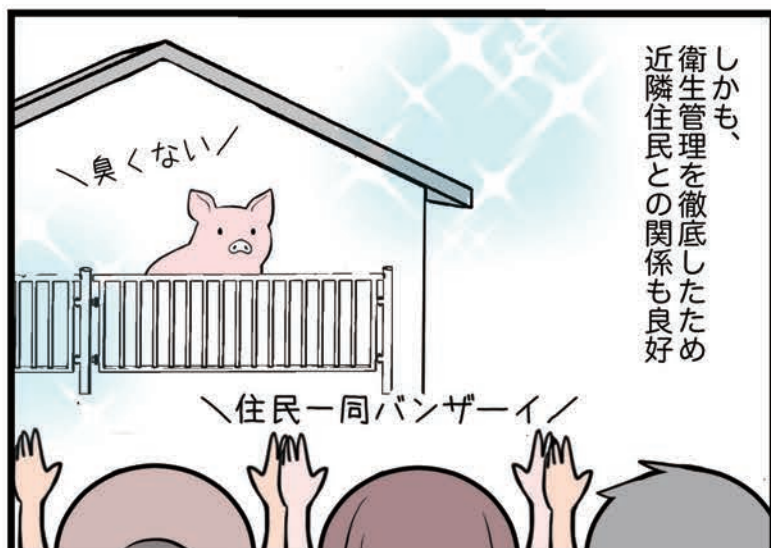
たくさんの方々に
支えてもらい、
農業が軌道に乗る

商工
会議所

これまでの
経営を活かす



グッドポイント②
一般的に、養豚場は糞尿等により異臭が強いものの、先代経営者の農場は、衛生管理を徹底し、周辺住民から苦情がない農場であった。後継者もこれに倣い、先代経営者のもとで衛生管理を1年間学んだ。現在もたい肥の管理を直接先代経営者が担当しており、継続して周辺住民とも良好な関係である。



しかも、
衛生管理を徹底したため
近隣住民との関係も良好

研修先での経営継承

経営継承までのプロセス

2004年～

後継者は大手銀行に勤務。徐々に経営者の世界に惹かれ、働きながら農業の学校に通う。銀行を退職し、妻の地元へ移住し、研修先を探す

2018年11月

後継者が、養液栽培を勉強する目的で研修生として入社。



先代経営者／
松村 務さん
(68歳)の場合

退職後の短い期間で、養液栽培において滋賀県で一二を争う規模と設備のトマト農園を築き上げた異色の農業経営者。当時は後継者が本当に見当たらなかった為廃業もやむなしとの考えだった。

浅小井農園株式会社

- 売上高：50百万円(2019年)
- 経常利益：4百万円
- 従業員数：役員3名、正社員4名、パート・アルバイト4名
- 事業地：滋賀県近江八幡市
- 事業概要：農産物の生産(施設野菜(トマト))消費者直売
- 規模：施設 8,000㎡

2020年2月

研修終了1か月前に後継者より経営継承プランを提案し、先代経営者が了承(家族会議で了承)

**かくして具体的に
継承の取組みがスタート!**

資産の継承等はM&Aに詳しい税理士に相談

2020年2月～

後継者の継承スケジュールや事業計画書、専門家のデューデリジェンス等を踏まえて継承方法を検討

2020年10月

株式譲渡により継承

研修生に継承（第三者継承・法人）

継承内訳

人（経営権）の継承

● 先代経営者は、取締役会長として、後継者の側面サポートを実施。実務にはできるだけ関わらないようしている。

資産（モノ・カネ）の継承

● 株式を99%後継者が代表である会社※へ無償譲渡。1%は役員退任の権利／株式買戻の権利を付与する種類株として、先代経営者が保有する株式譲渡契約書を締結（セカンドオピニオンも実施）。
● 農地は賃借（有償）。
● 取引先からの借入金に対し、すべて連帯保証を差し入れていたが、継承後後継者に順次移管。
※後継者は浅小井農園（株）の株式を所有する別法人を設立している。

知的資産の継承

● 生産技術は研修生として習得。
● 従業員に対しては、全員を集めて口頭で告知。取引先には順次書面や口頭で説明。

継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／浅小井農園（株）代表取締役
関澤 征史郎さん（40歳）

継承年月…2020年10月
売上高…57百万円（2020年）
経常利益…5百万円
従業員数…役員2名、正社員4名、パートアルバイト10名
事業概要…農産物の生産（施設野菜（トマト））消費者直売
規模…施設8000㎡

継承前は経営規模に対し、従業員数6名と少なく、販路についても直売所100店舗程度と規模の割には十分でなかった。

現在は従業員数を短期アルバイト含め14名まで増やし、販路についても直売所、スーパー合わせて約350店舗まで開拓し、収量に見合った販路を確保した。

生産者としての業務に加えて、コンサルティング業務や他のビジネスを組み合わせることによって事業リスクを分散させたいと考えている。

「農業」×「金融」×「リスクヘッジ」で「強い農業者」を目指す。



👉次ページにて継承ポイントを詳しく解説

浅小井農園(株)のケースから学ぶ
経営継承あるある

登場人物



先代經營者：松村務



後継者：関澤征史郎

私の名前は松村務

一代で県下有数の
トマト農園に育てはしたが
果たして誰に想いを
継いでもらえるのか……

私の優れた栽培技術を学ぼうと、
今日も研修生が訪れる

よろしく
お願いします

私の名前は関澤征史郎
経営者に憧れ、銀行マンか
転職した異色の研修生だ

農業技術や経営学を
学んできたからこそ分かる!!

ココこそ、
私の目指すべき
農園だ!!

君、熱心だね

工
川

グッドポイント①

就農前に後継者は金融機関に勤めながら、農業の学校に通い、農業技術と農業経営を学んで研修をスタートした。農業経営を学んだ上で、就農（研修）したことで、円滑な経営継承に繋げることができた。

就農前の
周到な準備



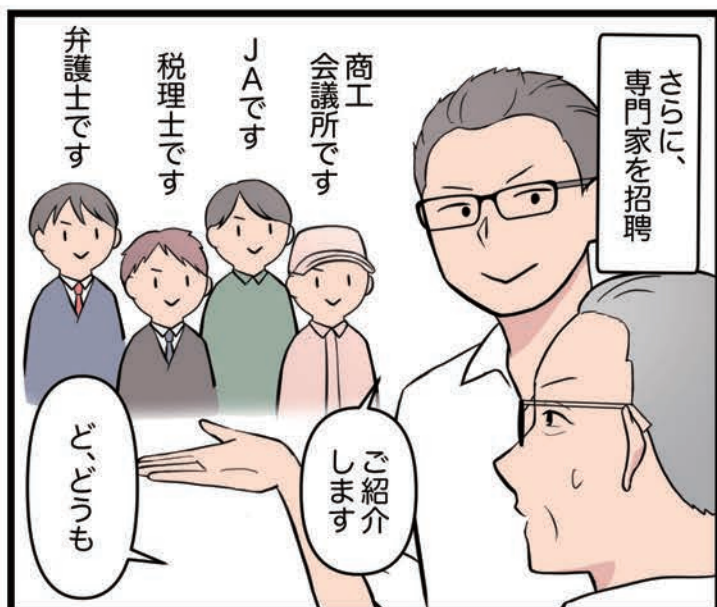
研修も終了間近なとある日…

そういえば
後継者不在の件は
どうなったのですか？

最悪廃業も
致し方
ないかな……

そういう事でしたら私にお任せ頂けませんか？松村さんの納得がいくプランを提案します

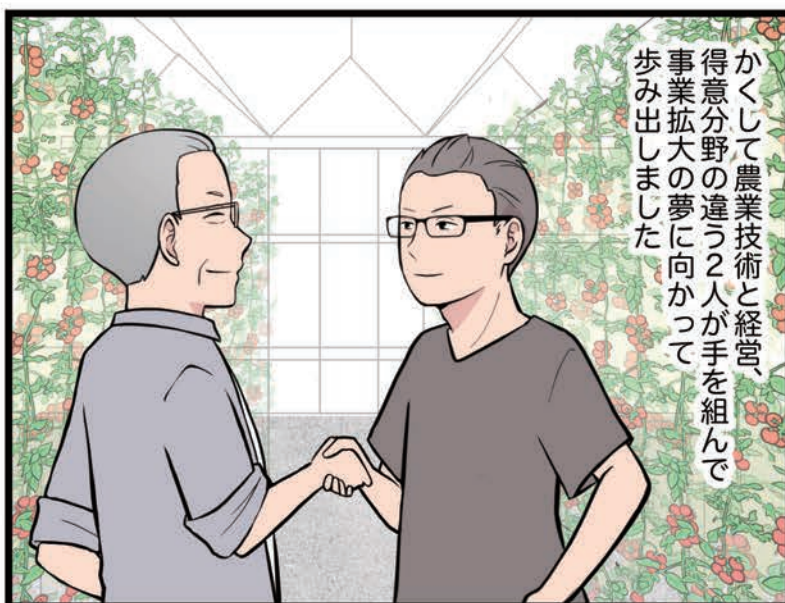
あ、あ、う



グッドポイント②

経営継承において、先代経営者と後継者は利益相反関係にあるが、お互いの要望を可能な限り盛り込んでいる。頻繁に意思確認を行い、先代経営者の心配な点に配慮するため、種類株式（先代経営者に対し、株式の1%は役員退任の権利/株式買戻の権利を付与する種類株）を発行し、株式売買を行った。

お互いの
要望を
組み込む



グッドポイント③

経営継承は、専門家である税理士や弁護士、JAや市町村の農業関連部署と一緒に進めるケースが多い。今回は更に地元の商工会議所にもいわゆるセカンドオピニオンとしての判断・評価を依頼し、その意見も参考にして先代経営者と後継者の意思決定を行った。

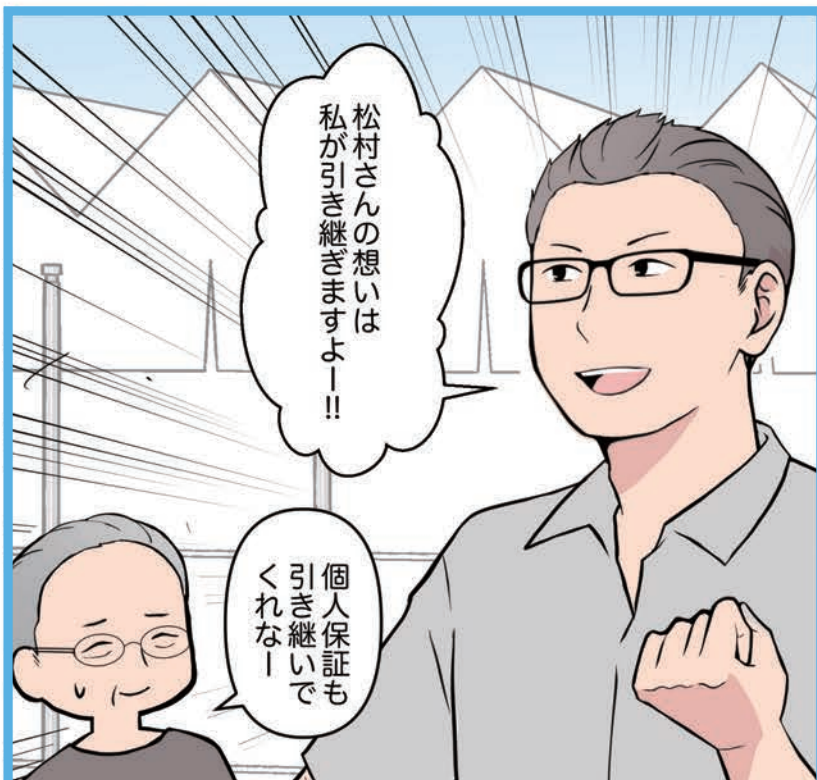
セカンド
オピニオン



ケアポイント

法人の負債について、代表者を保証人としていたことから、後継者が新たな保証人となった。個人保証については、後継者への負担となることも多い。中小企業庁が定める経営者保証に関するガイドラインに基づき、経営者の個人保証は条件により免除されるケースがある。

保証債務に
ついて



代表者交代による第三者経営継承

経営継承までのプロセス

1989年

農事組合法人を設立

2012年

後継者はJAに就職し、農業の現状を学ぶ

2016年

農事組合法人重兼農場に後継者が就職

2017年～2018年

理事会で協議するも後継者決まらず

2018年春

後継者が代表者に立候補

かくして具体的に
継承の取組みがスタート!

理事会で議論
新たな経営者として、販売先等に直接紹介

2018年5月

総会により、正式に代表者として承認



先代経営者／
本山博文さん
(82歳)の場合

集落の8割の農地を集積している。経営サイドの高齢化に伴い早急な世代交代を計画。

農事組合法人 重兼農場

- 売上高：非公開
- 経常利益：非公開
- 従業員数：理事10名、正社員1名、アルバイト6名
- 事業地：広島県東広島市
- 事業概要：農産物の生産（稲作、麦類作、水稻育苗）
- 規模：耕作面積25ha

従業員への継承（第三者継承・法人）

継承内訳

人（経営権）の継承

- 後継者は従業員として、現場作業と経理に従事。
- 事業譲渡1年前より、先代経営者から経営者としての指導を受ける。

資産（モノ・カネ）の継承

- 代表者交代のため、特段の資産の移動はなし。
- 借入はなく、債務引受や保証人の交代もなし。

知的資産の継承

- 先代経営者は継承後も1年間は理事として残り、生産ノウハウについて、理事会や現場で伝える。
- 会議や研修会の場にはできるだけ同行し、直接紹介すること周知した。

継承後の経営発展と今後の取り組み

後継者／（農）重兼農場組合長
山崎 拓人さん（32歳）

継承年月…2018年5月
売上高…58百万円（2021年）
経常利益…4百万円
従業員数…理事8名、正社員5名、パートアルバイト9名
事業概要…農産物の生産（稲作、水稻育苗、作業受託、露地野菜）
規模…耕作面積40ha

平成30年4月に地元JAと5つの集落法人との共同出資による株式会社ファームサポート広島中央を設立した。その中心法人として、個人や他法人へのバックアップを積極的に行う。大規模な受託作業や作物統一による販売力の強化を行い、市内全域の農地維持と発展に尽くす。

また、最新技術を活用したスマート農業も積極的に取入れ、省力化と若者雇用につなげていく。

農地と地域保全のためには、職業としての農業の確立が必要。法人設立の本来の目的である「農地を守る」ために、攻める法人と守る法人を区別化し、農業の維持発展に全力で努めていく。



〔農〕重兼農場のケースから学ぶ経営継承あるある

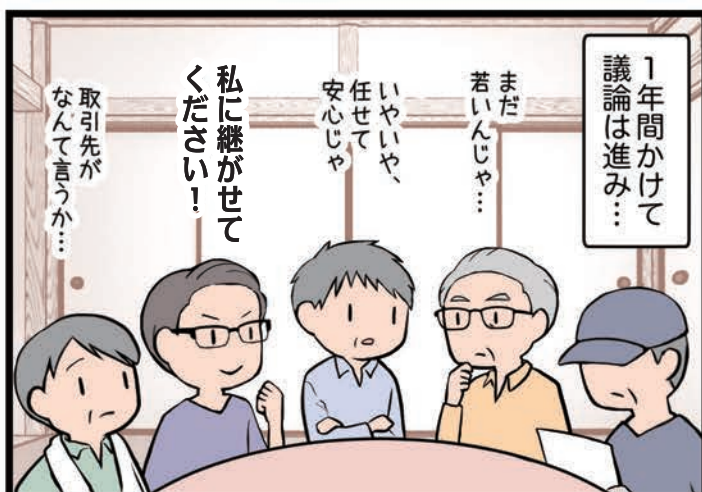
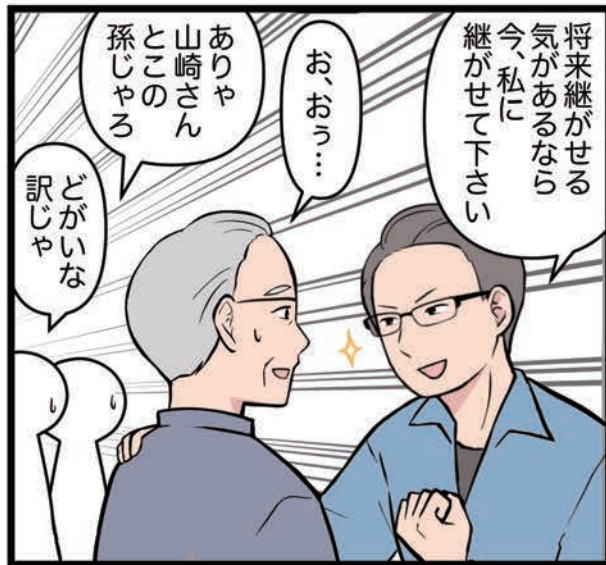
登場人物



先代経営者：本山博文



後継者：山崎拓人



グッドポイント②

経営継承を機に経営の見直しに着手。農地のとりまとめ、簡単な農作業をして機械作業を明確に分業化した。それにより、耕作放棄地の解消と重兼農場の機械の有効活用が実現。併せて作業受託は正社員を新たに雇用して対応。作業の効率化と規模拡大をより真剣に考えるきっかけとなった。

継承を機に
経営の
見直し!



グッドポイント③

「安定した収入と休みを確保しなければ優秀な人材は集まらず、働き甲斐を感じなければ続かない」と考え、労働環境を整えることを重視。就業規則の見直しや老朽化した設備の改善を行った結果、多数の求人応募があり、人手不足が解消。

労働環境の
整備!



ケアポイント

地域に50代〜60代といった中間層がないことから、79歳から29歳への代表交代を行った。代表者や地域の方々が元気なうちに継承すると、しっかりと指導を受けることができる。早いうちに経営改善を行い、若手の後継者候補を地域内外問わずに常勤で雇用する等、計画的に経営継承に取り組むことも大切である。

先を見据えて
計画的な
継承を!!



